【改定後】

大分県土木工事検査必携

大分県土木工事検査必携

令和2年10月

令和3年10月

大 分 県

大 分 県

# 大分県建設工事検査基準の適用 にあたっての留意事項

今回の「大分県建設工事検査基準」は、令和2年10月1日改訂の「土木工事の施工管理基準 及び規格値」を基にした規格値等で検査基準を作成しています。

○ 令和2年10月1日以降起工の工事については、改訂後の「大分県建設工事検査基準」を適用して 下さい。また、以前の工事については旧検査基準の適用をお願いします。

# 【改定後】

# 大分県建設工事検査基準の適用 にあたっての留意事項

今回の「大分県建設工事検査基準」は、令和3年10月1日改訂の「土木工事の施工管理基準 及び規格値」を基にした規格値等で検査基準を作成しています。

○ 令和3年10月1日以降起工の工事については、改訂後の「大分県建設工事検査基準」を適用して 下さい。また、以前の工事については旧検査基準の適用をお願いします。

### 大分県建設工事検査要綱

H29改正

(趣 旨)

第1条 この要綱は、大分県建設工事検査規程(平成23年大分県訓令甲第15号。以下「検査規程」 という。) に基づき、土木建築部及び農林水産部が施工する建設工事(土木工事、農業土木工事、 森林十木工事、水産十木工事、電気・機械・電気通信等の設備工事及び建築工事等)の検査の実施 について必要な事項を定める。

(用語の意義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによ る。

(1) 檢查員

土木建築部工事検査室長(以下「工事検査室長」という。)、本庁の発注機関の長及び地方機 関の長から検査を命ぜられた者をいう。

(2) 監督員

大分県公共工事請負契約約款 (平成27年大分県告示第200号。以下「約款」という。) 第 9条に規定する者をいう。

(3) 受注者

県と工事の請負に関し契約を締結した者をいう。

(給杏の種類)

第3条 検査の種類は、検査規程第2条に定める検査とする。

- 2 完成検査は、約款第31条に規定する工事の完成の確認及び約款第39条に規定する指定部分に 係る完了の確認をするための検査をいい、出来形確認又は中間検査で既に検査した部分を含め、す べての出来形について行うものとする。
- 3 出来形確認は、約款第38条及び第52条に規定する工事の出来形部分及び工事現場に搬入した 工事材料の確認をするための検査をいう。
- 4 中間検査は、次のものをいう。
- (1) 約款第33条の規定に基づき工事目的物の全部又は一部を使用する場合に、特記仕様書におい て検査対象工事と定められた部分の確認をするための検査
- (2) 橋梁等の構造部材の仮組立等で特記仕様書において検査対象工事と定められた部分の確認をす るための検査

(工事検査室長が行う検査)

第4条 工事検査室長は、次項及び第3項に定める工事について前条の検査を行うものとする。

- 2 十木建築部の丁事
- (1) 本庁の発注機関の長が執行する一件の設計金額が1千万円以上の工事
- (2) 地方機関の長が執行する一件の設計金額が8千万円以上の工事
- (3) 本庁の発注機関の長及び地方機関の長が執行する一件の設計金額が1千万円以上の設備工事 (電気・機械・電気通信工事)
- (4) 前三号に掲げるもののほか、本庁の発注機関の長及び地方機関の長から検査を依頼された工事

# 【改定後】

大分県建設工事検査要綱 R 2改正

(趣 旨)

第1条 この要綱は、大分県建設工事検査規程(平成23年大分県訓令甲第15号。以下 「検査規程」という。)に基づき、十木建築部及び農林水産部が施工する建設工事(十 木工事、農業十木工事、森林十木工事、水産十木工事、電気・機械・電気通信等の設備 工事及び建築工事等)の検査の実施について必要な事項を定める。

(用語の意義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定める ところによる。

(1) 檢查員

土木建築部工事検査室長(以下「工事検査室長」という。)、本庁の発注機関の長 及び地方機関の長から検査を命ぜられた者をいう。

(2) 監督員

大分県公共工事請負契約約款(平成27年大分県告示第200号。以下「約款」と いう。)第9条に規定する者をいう。

(3) 受注者

県と工事の請負に関し契約を締結した者をいう。

(検査の種類)

第3条 検査の種類は、検査規程第2条に定める検査とする。

- 2 完成検査は、約款第31条に規定する工事の完成の確認及び約款第39条に規定する 指定部分に係る完了の確認をするための検査をいい、出来形確認又は中間検査で既に検 査した部分を含め、すべての出来形について行うものとする。
- 3 出来形確認は、約款第38条及び第52条に規定する工事の出来形部分及び工事現場 に搬入した工事材料の確認をするための検査をいう。
- 4 中間検査は、次のものをいう。
- (1)約款第33条の規定に基づき工事目的物の全部又は一部を使用する場合に、特記仕 様書において検査対象工事と定められた部分の確認をするための検査
- (2) 橋梁等の構造部材の仮組立等で特記仕様書において検査対象工事と定められた部分 の確認をするための検査

(工事検査室長が行う検査)

第4条 工事検査室長は、次項及び第3項に定める工事について前条の検査を行うものと する。

- 2 十木建築部の丁事
- (1) 本庁の発注機関の長が執行する一件の設計金額が1千万円以上の工事
- (2) 地方機関の長が執行する一件の設計金額が8千万円以上の工事
- (3) 本庁の発注機関の長及び地方機関の長が執行する一件の設計金額が1千万円以上の

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成19年5月1日から施行する。(平成19年4月26日工検第68号) (施行期日)
- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。(平成22年3月30日工検第795号) (施行期日)
- 1 この要綱は、平成23年10月21日から施行する。(平成23年10月21日工検第55号) (施行期日)
- 1 この要綱は、平成24年7月1日から施行する。(平成24年6月29日工検第418号) (施行期日)
- 1 この要綱は、平成27年10月1日から施行する。(平成27年9月18日工検第411号) (施行期日)
- 1 この要綱は、平成29年4月1日から施行する。 (平成29年3月21日工検第925号)

# 【改定後】

(施行期日)

- この要綱は、平成19年5月1日から施行する。(平成19年4月26日工検第68号) (施行期日)
- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。(平成22年3月30日工検第795号) (施行期日)
- 1 この要綱は、平成23年10月21日から施行する。(平成23年10月21日工検第55号) (施行期日)
- 1 この要綱は、平成24年7月1日から施行する。(平成24年6月29日工検第418号) (施行期日)
- 1 この要綱は、平成27年10月1日から施行する。(平成27年9月18日工検第411号) (施行期日)
- 1 この要綱は、平成29年4月1日から施行する。 (平成29年3月21日工検第925号) (施行期日)
- 1 この要綱は、令和3年4月1日から施行する。(令和3年3月24日工検第787号)

第1号様式(第11条関係)

# 検査結果報告書

工事名							
路河川名等							
工事場所							
受 注 者							
工期	自 <del>平成</del> 年	月	日	完成年月日	平成年	月	日
上 朔	至平成年	月	日	検査年月日	平成 年	月	日
監監	員 員	立	会	施工	者	立	숲
(正)		有	無	受 注 者		有	無
(副)		有	無	現場代理人		有	無
(副)		有	無	専任技術者		有	無
最終設計額		円		最終請負額		円	
設計概要	•			<u> </u>			
検査結果							
快 且 和 木							

上記のとおり、工事の完成検査<del>(出来形確認・中間検査)</del>の結果について、大分県建設 工事検査規程第7条第2項の規定により報告します。

平成	年	月	日	
			検査員	

工事検査室長 殿 (又は本庁の発注機関、地方機関の長)

# 【改定後】

第1号様式(第11条関係)

# 検査結果報告書

工 事 名								
路河川名等								
工事場所								
受 注 者								
工期	自	年	月	日	完成年月日	年	月	日
上 朔	至	年	月	日	検査年月日	年	月	日
監監	Z.	員	立	会	施工	者	立	会
(正)			有	無	受 注 者		有	無
(副)			有	無	現場代理人		有	無
(副)			有	無	専任技術者		有	無
最終設計額			円		最終請負額		円	
設計概要								
検査結果								

上記のとおり、工事の完成検査<del>(出来形確認・中間検査)</del>の結果について、大分県建設 工事検査規程第7条第2項の規定により報告します。

> 年 月 日 検査員

工事検査室長 殿 (又は本庁の発注機関、地方機関の長)

# 【改定後】

第2号様式(第11条関係)

# 検査結果通知書

工事名       工事場所       工期 自 平成 年 月 日 受注者 至							
工事場所       工期     自平成年月日     年月日     受注者     代表者       完成年月日     平成年月日     日日     (正)       検査年月日     平成年月日     日日     (副)       検査日日     平成年月日     日日     (副)	工 事 名						
工     期     自     平成     年     月     日     受注者     代表者       完成年月日     平成     年     月     日     (正)       検査年月日     平成     年     月     日     監督員     (副)       検査     員     平成     年     月     日     (副)	路河川名等						
工     期     至     平成     年     月     日       完成年月日     平成     年     月     日     監督員     (正)       検査年月日     平成     年     月     日     監督員     (副)       検査     員     平成     年     月     日	工事場所						
至 平成 年 月 日       完成年月日 平 成 年 月 日 検査年月日 平 成 年 月 日 監督員 (副)       検 査 員 平 成 年 月 日	T #8	自 平成	年	月	日	巫沙孝	代 表 者
検査年月日     平成     年月日     日     監督員     (副)       検査員     平成     年月日     (副)	上 朔	至一平成	年	月	日	文任有	
検査員 平成 年 月 日 (副)	完成年月日	平成	年	月	B		(正)
	検査年月日	平成	年	月	B	監督員	(副)
検 査 結 果	検 査 員	平成	年	月	日		(副)
	検 査 結	果					

上記のとおり、工事の完成検査(出来形確認・中間検査)を行ったので、大分県建設工事検査 規程第7条第2項の規程により通知します。

平成 年 月 日

発注者

工事検査室長

(又は本庁の発注機関、地方機関の長)

第2号様式(第11条関係)

# 検査結果通知書

工 事 名				
路河川名等				
工事場所				
工期	自	年 月 日	受注者	代表者
	至	年 月 日	文任有	
完成年月日	年	月 日		(正)
検査年月日	年	月 日	監督員	(副)
検 査 員	年	月 日		(副)
検 査 結	果			

上記のとおり、工事の完成検査(出来形確認・中間検査)を行ったので、大分県建設工事検査 規程第7条第2項の規程により通知します。

年 月 日

工事検査室長

(又は本庁の発注機関、地方機関の長)

殿

発注者

# 年度 工事検査復命書

検査期間: 年 月 日~ 年 月 日 上記の期間に下記のとおり工事検査を実施したので復命します。

冊

ш

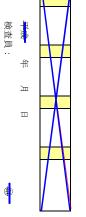
檢查員:

												事務所名
												工事名
KH	<b>III</b>	KH	₽	KH	₽	HЯ	卧	KH	卧	KH	曲	契約工期
	: 		J		I		J		I		J	契約金額
												安 注 有 名 (上段:商号又は名称) (下段:代表者)
												光 及 年 月 日
												検査種別
												編光

# 第3号様式(第12条関係)

# 平泉 年度 工事検査復命書

												事務所名	検査期間: <del>下戻</del> 4 上記の期間に下記のと
												工事名	検査期間: <del>平成</del> 年 月 日~ <del>平成</del> 年 月 日 上記の期間に下記のとおり工事検査を実施したので復命します。
附		ା	₩	ା	₩	附	<u></u>	附	<u></u>	ା	₽	契約工期	· * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
	围		围		围		围		围		围	契約金額	
												受 注 者 名 (上段:商号又は名称 (下段:代表者)	<del>平成</del> 検査!
												完成年月日	<del>平成</del> 年 月 検査員:
												検査種別 備	Ш
												淅	(♣)



第4号様式 (第14条関係)

# 工事検査台帳(完成・出来形・中間)

I	事	名											検査	E回数			
I	事場	所	市	• 郡	町	^•村	大字						福和				
担	当事業	美 課						担	且当日	事務	所						
検	查年月	l l	•	开放	年	月	Ħ	立	卧	督	昌						
検	査	員						会人	m.	B	д						
職	氏	名					<del>- 1</del>		受	注	者						
設	計	額						受									
請	負	額						-	商		号						
監	督	員						注									
								者		者等							
エ		期	<del>1 //X</del>	年	月		から			表							
			717 LD														
		F	平成	年	月		まで	-	見場(			217	4	Æ	П		п
評	=	点	平成		月	点		É		<b></b> 戊 理	月 T	<del>F )</del>		年		#	B
		点設	平成	計	月			-				<del>平 ;</del> 検	査	-	月	事	B
	Ē		平成		月 	点		É						-			B
	ne in the contract of the cont		平成			点		É						-			Ħ
	ii E		平成		月	点		É						-			日
	THE STATE OF THE S		平成		月 ————————————————————————————————————	点		É						-			目
	THE STATE OF THE S		平成		月	点		É						-			日
	unic.		平成		月	点		É						-			日
	WILL STATE OF THE		平成		月	点		É						-			Ħ
	THE STATE OF THE S		平成		月	点		É						-			B
	THE STATE OF THE S		平成		月	点		É						-			H
	WL.		平成		<u>月</u>	点		É						-			В

生 一体部内、欄には、検査部門の責任者が確認的を押的する。

# 【改定後】

第4号様式 (第14条関係)

# 工事検査台帳(完成・出来形・中間)

工	事	名											検査回	数			
工	事場	易所	ī	ゴ・郡	町	· 村	大字										
担	当 事	業 課						担	当	事 務	所						
検	査 年	月日			年	月	E	立	既	督	吕						
検	查	員						会	ïm.	·B.	具						
職	氏	名						人	受	注	者						
設	計	額						受									
請	負	額							商		号						
監	督	員						注									
im.	Ħ	Д							業	者等	級						
I		期		年	月	日	から	者	代	表	者						
		791		年	月	日	まで	玛	見場(	代 理	人						
評		点				点	į	爿	E 19	戓	日		年		月		日
		設		計		概		要				検	查	記		事	

# 大分県建設工事検査基準

### (目的)

第1 この検査基準は、大分県建設工事検査要綱第8条の規定に基づき検査に必要な技術的事項を定め、検査の適切な実施を図ることを目的とする。

### (検査の内容)

第2 検査は当該工事の出来形を対象として契約書、仕様書、設計図書、その他関係書類(以下「契約書等」という。)に基づき、工事の実施状況、出来形及び品質について適否の判定を行う ものとする。

### (工事の実施状況の検査)

第3 工事の実施状況の検査は、出来形管理、品質管理、工程管理、社内検査(社内検査を行っている場合)、その他の実施状況に関する各種の資料と契約書等を対比し、別表1及び別表2 に掲げる事項に留意して、施工管理状況、施工状況の適否の判定を行うものとする。

### (工事の出来形及び品質の検査)

- 第4 工事の出来形及び品質の検査は、位置、出来形寸法、品質及び出来ばえについて、設計図書と対比して、別表3に掲げる工事検査基準に基づき適否の判定を行なうものとする。
  - 2 地中、水中、小口径の管路、高所等に設置された構造物等の部分でその適否の判定が困難なものについては、監督員の段階確認資料及び主任技術者(監理技術者)から施工の状況等を聞くとともに、工事写真、社内検査資料(社内検査を行っている場合)等の施工管理資料等に基づき判定するものとする。

また、写真等(デジタルカメラ。デジタルビデオを含む。)の媒体を使用することができるものとする。

- 3 工事用材料及び製品の検査については、品質管理資料によるほか、適正な判断が困難なものについては、公共機関並びに大分県が指定する試験場に依頼して判定することができる。
- 4 工事の施工部分が設計図書に適合しないと認められる相当の理由がある場合において、必要があると認められるときは、その理由を明らかにして工事目的物を最小限度破壊して検査することができる。

### 附 則

- 1. この検査基準は、平成18年 4月3日から適用する。
- 2. この検査基準は、平成27年 8月3日から適用する。
- 3. この検査基準は、平成27年10月1日から適用する。
- 4. この検査基準は、平成28年10月1日から適用する。
- 5. この検査基準は、平成29年10月1日から適用する。

# 【改定後】

# 大分県建設工事検査基準

### (目的)

第1 この検査基準は、大分県建設工事検査要綱第8条の規定に基づき検査に必要な技術的事項を定め、検査の適切な実施を図ることを目的とする。

### (検査の内容)

第2 検査は当該工事の出来形を対象として契約書、仕様書、設計図書、その他関係書類(以下「契約書等」という。)に基づき、工事の実施状況、出来形及び品質について適否の判定を行う ものとする。

### (工事の実施状況の検査)

第3 工事の実施状況の検査は、出来形管理、品質管理、工程管理、社内検査(社内検査を行っている場合)、その他の実施状況に関する各種の資料と契約書等を対比し、別表1及び別表2 に掲げる事項に留意して、施工管理状況、施工状況の適否の判定を行うものとする。

### (工事の出来形及び品質の検査)

- 第4 工事の出来形及び品質の検査は、位置、出来形寸法、品質及び出来ばえについて、設計図 書と対比して、別表3に掲げる工事検査基準に基づき適否の判定を行なうものとする。
  - 2 地中、水中、小口径の管路、高所等に設置された構造物等の部分でその適否の判定が困難なものについては、監督員の段階確認資料及び主任技術者(監理技術者)から施工の状況等を聞くとともに、工事写真、社内検査資料(社内検査を行っている場合)等の施工管理資料等に基づき判定するものとする。

また、写真等(デジタルカメラ。デジタルビデオを含む。)の媒体を使用することができるものとする。

- 3 工事用材料及び製品の検査については、品質管理資料によるほか、適正な判断が困難なものについては、公共機関並びに大分県が指定する試験場に依頼して判定することができる。
- 4 工事の施工部分が設計図書に適合しないと認められる相当の理由がある場合において、必要があると認められるときは、その理由を明らかにして工事目的物を最小限度破壊して検査することができる。

### 附 則

- 1. この検査基準は、平成18年 4月3日から適用する。
- 2. この検査基準は、平成27年 8月3日から適用する。
- 3. この検査基準は、平成27年10月1日から適用する。
- 4. この検査基準は、平成28年10月1日から適用する。
- 5. この検査基準は、平成29年10月1日から適用する。
- 6. この検査基準は、令和3年10月1日から適用する。

編	章	節	条	枝番	工稼		6 查 項	В	規格値		検 査	箇 所		備考
				番	-	19	x 五 坝	а	THE THE	割	合	敢 少 固 数	Pf	THH -17
1 共 通	土土工	3河	2		据削工	基	準高	$\nabla$	±50					
編	-	川.5					幅		-100					
		海岸・				法長	£<5	m	-200	全項目共 1	/200m	全項目共	3	管理資料により判定
		砂防				e	e≥5	m	法長-4%					
		土土工				延	長	L	-200					
			3		盛土工	基	準高	$\nabla$	-50					
						法長	£<5	m	-100					
						ê	0≥5	m	法長-2%	全項目共 1	/200m	全項目共	3	管理資料により判定
						幅	7	V1 W2	-100					
						延	長	L	-200					
			3	4	補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法)	基	準高	$\nabla$	-50					
					(多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強 土壁工法)	厚	ż	t	-50					
						控	<b>之</b> 县	ŧ	設計値以上	随	時	随	時	管理資料により確認
						鉛	直度	Δ	±0.03hかつ ±300以内					
			5		法面整形工(盛土部)	厚	ż	t	₩ - 30	随	時	随	時	管理資料により確認 ※土羽打がある場合に適用
			6		堤防天端工	厚さ	t<15	icm	-25					
						t	t≧1	icm	-50	随	時	随	時	管理資料により確認
						幅		W	-100					
1 共	2 土	4 道	2		掘削工	基	準高	$\nabla$	±50					
通編	I.	路土				法長	e<5	m	-200					
		Ι.				£	£≥5	m	法長一4%	全項目共 1	/200m	全項目共	3	管理資料により判定
						幅		w	-100					
						延	長	L	-200					
			3 4		路体盛土工 路床盛土工	基	準高	$\nabla$	±50					
						法長	£<5	m	-100					
						Į.	0≥5	m	法長-2%	全項目共 1	/200m	全項目共	3	管理資料により判定
						幅	7	V1 W2	-100					
						延	長	L	-200					
			5		法面整形工(盛土部)	厚	ż	t	₩ - 30	随	時	随	時	管理資料により確認 ※土羽打がある場合に適用
1 共	消じ	7 鉄	4	Ī	組立て	平	均間	ল d	± φ					
(通編	筋・鉄筋	筋工				か	\$ 1	t	± φかつ 最小かぶり 以上	随	時	随	時	管理資料により確認
	肋コンクリート													φは鉄筋径

編:	能館	i 条	枝番	工 種	検査項目	規札	各値	割	検査	箇 所 最 少 箇	i Ph	備考
1 :	2 3 上 河		1	掘削工	基 準 高 ▽	±	50	117		87		
通編	E JII				幅	-1	00					
	海岸				法 長 <5m	-2	00	全項目共 1	/200m	全項目共	3	管理資料により判定
	砂防				ê £≧5m	法長	-4%					
	土工			极刻于	延 長 L	-2						
		2	2	掘 削 エ (面管理の場合)		平均值	個々の 計測値					
					平場 標高較差	±50	±150		1 工事に	つき1断面		
					法面 (小段含む) 水平 または 標高較差	±70	±160					
		2	3	掘 削 エ (水中部) (面管理の場合)		平均值	個々の 計測値					
				(田田子生ンの日)	平場 標高較差	±50	+300 以下		1 工事に	つき1断面		
					法面 水平 または 標高較差	±70	+300 以下					
		3	1	盛土工	基準高 ▽		50					
					法 長	-1	00					
					ℓ ℓ≥5m	法長	-2%	全項目共 1	/200m	全項目共	3	管理資料により判定
					幅 W 1 W 2	-1						
		3		w 上 丁	延 長 L	-2						
		3	2	盤 エ エ (面管理の場合)		平均值	個々の 計測値					
					天端 標高較差	-50	-150					
					法面	-50	-170		1 工事に	つき1断面		
					4割≦勾配 標高 較差 (小段含む)	-60	-170					
		3		補強土壁工	XをX割と表したもの。	は、鉛直方				Т		
		3	4	(補強土(デールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強	基 準 高 ▽							
				(ジオテキスタイルを用いた補強 土壁工法)	厚 さ t		50	随	時	随	時	管理資料により確認
					控え長さ	±0	直以上 .03h					
		5		法面整形工(盛土部)	即 E 及 Z		300以内 - 30	随	時	随	肿	管理資料により確認 ※土羽打がある場合に適用
		6		堤防天端工	厚 t<15cm	-2		P-LL		PAZ.		※土羽打がある場合に適用
					さ t t≧15cm	[		随	時	随	時	管理資料により確認
					幅 W	-1	00					
1 :	2 4 道丘路	2	1	据削工	基準高 ▽	±	50					
共通編	土				法 長	-2	00					
	I				ℓ ℓ≧5m	法長	-4%	全項目共 1	/200m	全項目共	3	管理資料により判定
					幅 w	-1	00					
		2	2	ka kil r	延 長 L	-2						
		2	2	掘 削 エ (面管理の場合)		平均值	個々の 計測値					
					平場 標高較差 法面 水平または	±50	±150		1 173817 -	つき1断面		
					(小段含む) 標高 較差	±70	±160		1 11440	>C I D/I BI		
					(軟岩 I) (小段含む) 標高 較 差	±80	±330					
		3 4	1	路体盛土工 路床盛土工	基準高 ▽	+	50					
					法 長	-1	00					
					β β≧5m	法長	-2%	全項目共 1	/200m	全項目共	3	管理資料により判定
					₩ W 1 W 2	-1						
		0	2	致休成十十	延 長 L	-2						
		3	2	路体盛土工 路床盛土工 (面管理の場合)		平均值	個々の 計測値					
					天端 標高較差	±50	±150		1 工事に	つき1断面		
		5		法面整形工(盛土部)	(小段含む) 標 高 敷 差	±80	±190					determinate del 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1
Ц		1 "		partiz=///上(産上即/	厚 さ t	*	- 30	随	時	随	時	管理資料により確認 ※土羽打がある場合に適用

細	爺	節	条	枝番	工 種	検	查項	[ E	規格値	割	検査		BB Pf	備考
1	3	7	4		60 should	平均	m	隔 d	± 6	117	-	8hr		
共通	3無筋・	鉄鉱			組立て	平均	[H]	[999 CI						
編	か・鉄筋	工				かっ	33	9 t	± φかつ 最小かぶり 以上	随	時	随	時	管理資料により確認
	コンク													
	ッ リー.													φは鉄筋径
	7													

※中規模工事:1層当たりの施工面積が1,000㎡以上。

小規模工事:施工面積が1,000㎡未満。

福耳	能節	条	枝番	工種	検査項目	個々の	規 相 測定値 X)	各 値 10個の の平均	測定値	検 査	簡所	備考
			#			中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下	割合	最少箇所数	
3 2 ± -	-	7	1	アスファルト舗装工	基準高▽	±40	±50	-	-			
大 州	<b>投船</b>			(下層路盤工)	厚さ	-45	-45	-15	-15			管理資料により確認
# ]	装工				幅	-50	-50	-	-	各項目共 1/200m	全項目共3	※偏心量:幅管理にはいて道路中心線からた、右を管理する場合
垂					中心線偏心量		±	100	•			在、右を管理する場合 は不要
					延長L		-2	00				
			2	アスファルト舗装工	厚さ	-25	-30	-8	-10			date year lifer stell 1 = 1, to your stell star
				(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-50	-50	-	-	各項目共	全項目共3	管理資料により確認 ※偏心量:幅管理には いて道路中心線から
					中心線偏心量		±	100		各項目共 1 / 2 0 0 m	主领日共3	左、右を管理する場合 は不要
					延長L		-2	:00				13.1132
			3	アスファルト舗装工	厚さ	-25	-30	-8	-10	各項目共	全項目共3	管理資料により確認
				(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理	幅	-50	-50	-	-	1/200m	X 4 4 7 3	日本主席有りにより時間
			4	アスファルト舗装工	厚さ	-15	-20	-5	-7	各項目共	全項目共3	管理資料により確認
				(加熱アスファルト安定 処理工)	幅	-50	-50	-	-	1/200m	7 % 11 % 1	D CENT THOUSAND
			5	アスファルト舗装工	厚き	-9	-12	-3	-4	各項目共	全項目共3	管理資料により確認
				(基層工)	幅	-25	-25	-	-	1/200m	7 % 11 % 1	S CENT TO SOUTH
			6	アスファルト舗装工	厚き	-7	-9	-2	-3	各項目共		
				(表層工)	幅	-25	-25	-	-	1/200m		
								3mプロフィル (σ)2.4mm	ルメーター 以下長読			管理資料により確認 ※偏心量:幅管理に
					平坦性		-	式 (足付き)		各車線の中央で行う	全項目共3	いて道路中心線から 左、右を管理する場合
					中心線			(σ)1.75m	m以下			は不要
					偏心量			±100		各項目共 1 / 2 0 0 m		
		8	1	半たわみ性舗装工	延 長 L			1	1			
			1	(下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	-	-	各項目共		
				( ) in prince	厚さ	-45	-45	-15	-15	1/200m	全項目共3	管理資料により確認
			2	半たわみ性舗装工	幅	-50	-50	-	_			
				(上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚め	-25 -50	-30 -50	-8	-10 -	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
			3	半たわみ性舗装工	照さ	-50 -25	-30	-8	-10			
				(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚幅	-25	-30	-8	-10	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
			4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理	100	-50	-20	-5	-7			
				(加熱アスファルト安定処理 工)	厚幅	-50	-20	-5	-1	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
			5	半たわみ性舗装工	厚さ	-9	-12	-3	-4			
				(基層工)	厚 。	-25	-12 -25	-3	-4	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
			6	半たわみ性舗装工	照さ	-25 -7	-25 -9	-2	-3			
				(表層工)	厚 さ	-7 -25	-25	-2	-3	各項目共 1/200m		
					1/100	-20	-20	3mプロフィ	1-4-4-		全項目共3	管理資料により確認
					平坦性		_	(σ)2.4mm. ⇒t:	以下長旒	各車線の中央で行う		
								(足付き) (σ)1.75m	m以下			
		9	1	排水性舗装工	基準高▽	±40	±50	_	_			
				(下層路盤工)	厚き	-45	-45	-15	-15	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
					幅	-50	-50	_	_	1 / 2 U 0 m		
			2	排水性舗装工		-25	-30	-8	-10			
				(上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ					各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
			3	排水件舗装丁	幅	-50	-50	-	_			
			_	併示社舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚さ	-25	-30	-8	-10	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
					幅	-50	-50	-	-	1 / 2 U U m		
			4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理	厚さ	-15	-20	-5	-7	各項目共	全項目共3	管理資料により確認
				工)	幅	-50	-50	-	-	1/200m	土 枳 口 共 3	ロノ生具 ヤイル・より 個前
			5	排水性舗装工	厚き	-9	-12	-3	-4	各項目共		
				(基層工)						音項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認

# 【改定後】

※中規模工事:1層当たりの施工面積が1,000㎡以上。

								規	格 値				
編章	ĝi:	節	条	枝番	工 種	検査項目	個々の (:	測定値 X)	10個の の平均 ※面管理 は測定	里の場合	検 査	笛所	備考
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模 以 下	割合	最少箇所数	
3 2	2	6	7	1	アスファルト舗装工	基準高▽	±40	±50	_ N T	-			
	投				(下層路盤工)	厚き	-45	-45	-15	-15			管理資料により確認
工施事工	Ē	舗装工				66	-50	-50	_	_	各項目共	全項目共3	※偏心量:幅管理にお
通編						中心線		±	100		1/200m		いて道路中心線から 左、右を管理する場合 は不要
69g						偏心量延長L		-2	100				
				2	アスファルト舗装工	基準高▽	±90	±90	+40	+50			
					(下層路盤工) (面管理の場合)	厚 さいは 標高較差	±90	±90	-50 +40 -50	+50 -15	1工事に	つき1断面	管理資料により確認
				3	アスファルト舗装工	厚さ	-25	-30	-8	-10			
					(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-50	-50	-	-	各項目共		管理資料により確認 ※偏心量:幅管理にお
					1000	中心線偏心量		±	100		1/200m	全項目共3	いて道路中心線から 左、右を管理する場合
						延長L		-5	200				は不要
				4	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-54	-63	-8	-10	1工事に	つき1断面	管理資料により確認
				5	アスファルト舗装工	厚さ	-25	-30	-8	-10	各項目井		
					(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理	幅	-50	-50	-	-	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
				6	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理 エ (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-54	-63	-8	-10		つき 1 断面	管理資料により確認
				7	アスファルト舗装工	厚さ	-15	-20	-5	-7	各項目共	A 75 17 II. 0	And you like skel a ser by to referre
					(加熱アスファルト安定 処理工)	幅	-50	-50	-	-	1/200m	全項目共3	管理資料により確認
				8	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定 処理工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-36	-45	-5	-7	1工事に	つき 1 断面	管理資料により確認
				9	アスファルト舗装工 (基層工)	厚さ	-9	-12	-3	-4	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認 ※偏心量:幅管理にお いて道路中心線から
				10	アスファルト舗装工	幅厚さ	-25	-25	_	_			左、右を管理する場合
					(基層工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-20	-25	-3	-4	1工事に	つき1断面	管理資料により確認
				11	アスファルト舗装工	厚さ	-7	-9	-2	-3	各項目共		
					(表層工)	幅	-25	-25	-	-	1/200m		
						平坦性		-	3mプロフィ (σ)2.4mm 式 (足付き) (σ)1.75m	以下長院	各車線の中央で行う	全項目共3	管理資料により確認 ※偏心量:幅管理において道路中心線から 左、右を管理する場合 は不要
						中心線偏心量		±	100		各項目共		
						延 長 L		±	200		1/200m		
				12	アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-17	-20	-2	-3			
						平坦性		-	3mプロフィ (σ)2.4mm 式 (足付き) (σ)1.75m	以ーター 以下長読	1工事に	つき1断面	管理資料により確認
		İ	8	1	半たわみ性舗装工	基準高▽	±40	±50	-	-			
					(下層路盤工)	厚さ	-45	-45	-15	-15	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
						幅	-50	-50	-	-	1, 200m		
			2	半たわみ性舗装工 (下層路修工)	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15		L		
					(下層路盤工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1工事に	つき 1 断面	管理資料により確認
				3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	-10	各項目共		
					(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-50	-50	_	_	合項日共 1 ∕ 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
				4	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-54	-63	-8	-10	1工事に	つき1断面	管理資料により確認

※中規模工事:1層当たりの施工面積が1,000㎡以上。

小規模工事:施工面積が1,000㎡未満。

			枝			個々の	規制定値	格 値 10個の	測定値	検	查	箇		所		
福	牟 節	条	松番	工 種	検査項目	(	X) 小規模	の平均	为(X <sub>10</sub> ) 小規模			_			***	備考
3	2 6	9	6	排水性舗装工		以上	以下	以上	以下	割合		敢	少舊	à Ph	数	
比	股		-	(表層工)	厚き	-7	-9 or	-2	-3	各項目共 1/20	0 0 m					
E :	施 舗工 装				幅	-25	-25		_			全	項目	1 #	3	管理資料により確認
<b>共</b> 重編	I				平坦性		-	3mプロフィ (σ)2.4mm 式 (足付き) (σ)1.75m	以下長読	各車線の中央で行	Ţΰ	<b>T</b>	-x -		5	日本主具有により略成
		10	1	透水性舗装工	基準高▽	±	50	-	-							
				(路盤工)	厚さ	t < 15cm t ≧ 15cm	-30 -45	-10 -15	-	各項目共 1/20	0 m	全	項目	井	3	管理資料により確認
					幅	-1	00	-	-							
			2	透水性舗装工	厚さ	-	9	-	3	各項目共		全	項目	1 ±	3	管理資料により確認
				(基層工)	幅	-1	25		-	1/20	0 m		-X -			E STRAILCR > NEW
		11	1	グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理 工)	厚さ幅	-15 -50	-20 -50	-5 -	-7 -	各項目共 1/20	0 m	全	項目	共	3	管理資料により確認
			2	グースアスファルト舗装工 (基層工)	厚き	-9 -25	-12 -25	-3 -	-4	各項目共 1/20	0 0 m	全	項目	共	3	管理資料により確認
			3	グースアスファルト舗装工	厚き	-25	-25 -9	-2	-3							
				(表層工)	相相	-25	-25		-	各項目共 1/20	0 m					
					平坦性		-		以下長統	各車線の中央で行	τō	全	項目	共	3	管理資料により確認
		12	1	コンクリート舗装工	基準高▽	±40	±50		-							
				(下層路盤工)	厚き	-7	15	-	15							管理資料により確認
					幅		50		_	各項目共 1/20	) () m	全	項目	1 共	3	※偏心量:幅管理にいて道路中心線から
					中心線偏心量		±	100		1, 20	, o					左、右を管理する場合 は不要
					通 心 里 延 長 L		±	200								
			2	コンクリート舗装工	厚さ	-25	-30	-	-8							
				(粒度調整路盤工)	幅	-	50		_	Arvier II.						管理資料により確認 ※偏心量:幅管理に
					中心線		+	100		各項目共 1/20	0 m	全	項目	1 共	3	いて道路中心線から 左、右を管理する場
					偏心量 延長 L		+	200								は不要
			3	コンクリート舗装工	厚き	-25	-30	1	8							
				(セメント(石灰・瀝青)安定 処理工)	幅		50		_	各項目共 1 / 2 0	0 m	全	項目	共	3	管理資料により確認
			4	コンクリート舗装工	厚さ	-9	-12		-3							
				(アスファルト中間層)	戸 信		25		_	各項目共 1 / 2 0	0 0 m	全	項目	共	3	管理資料により確認
			5	コンクリート舗装工	厚き		10		3.5							
				(コンクリート舗装版工)	厚って	-			-	随	時					
					平坦性		_	コンクリー 後 3mプロフ メーター に 舗設の場 (σ)2.4m 人力舗設	トの硬化 イル こより機械 合 n以下 の場合	各車線の中央で行	īð	全	項目	1 共	3	管理資料により確認 ※偏心量: 幅管理に いて道路中心線から 左、右を管理する場 は不要
					目地段差		±	(σ)3mml ±2	以下	随	時					
					中心線偏心量		±	100		各項目共						
			L		延長 L		±	200		1/20	0 m					
			6	コンクリート舗装工	基準高▽	±40	±50		-							
				(転圧コンクリート版工) 下層路盤工	厚だ	7	15		15	随	時	全	項目	共	3	管理資料により確認
			7	コンクリート舗装工	幅											
				(転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚ら幅	-25 -	-30 50		-	随	時	全	項目	共	3	管理資料により確認
			8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定	厚き	-25	-30		8	随	時	全	項目	共	3	管理資料により確認
⅃	$\perp$	<u> </u>	<u> </u>	処理工	幅	-	50	<u> </u>	_							

# 【改定後】

※中規模工事:1層当たりの施工面積が1,000㎡以上。

								規 相	各値				
編	傘	節	条	枝番	工 種	検査項目	個々の ()	測定値	10個の の平均 ※面管理 は測定値	b(X <sub>10</sub> ) 理の場合 直の平均	検 査	笛  所	備考
							中規模以上	小規模以 下	中規模以上	小規模以下	割 合	最少箇所数	
3	2	6	8	5	半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	厚き	-25	-30	-8	-10	各項目共		Maria Maria de la compania del compania del compania de la compania del compania de la compania de la compania del compania de la compania de la compania de la compania del c
土木工事共	般施	般舗			セメント(石灰)安定処理工	幅	-50	-50	-	-	1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
事共通編	I	装工		6	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工 (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-54	-63	-8	-10	1工事に	つき 1 断面	管理資料により確認
				7	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理 工)	厚め	-15 -50	-20 -50	-5 -	-7 -	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
				8	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理 工)	厚さ あるいは 標高較差	-36	-45	-5	-7	1工事に~	つき 1 断面	管理資料により確認
				9	(面管理の場合) 半たわみ性舗装工	厚き	-9	-12	-3	-4	An article and the		
					(基層工)	超	-25	-25	_	_	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
				10	半たわみ性舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-20	-25	-3	-4		つき 1 断面	管理資料により確認
				11	半たわみ性舗装工	厚き	-7	-9	-2	-3	各項目共		
					(表層工)	幅	-25	-25	_	_	1/200m		
						平坦性	-	-	3mプロフィ (σ)2.4mm 式 (足付き) (の)1.75mm	以下長統	各車線の中央で行う	全項目共3	管理資料により確認
				12	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚さ あるいは 標高較差	-17	-20	-2	-3		N. J. Mariana	
					(面管理の場合)	平坦性	-	-	3mプロフィ) (σ)2.4mm 式 (足付き) (σ)1.75m		1 上事に2	つき 1 断面	管理資料により確認
			9	1	排水性舗装工	基準高▽	±40	±50	-	-			
					(下層路盤工)	厚さ	-45	-45	-15	-15	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
						幅	-50	-50	-	-			
				2	排水性舗装工	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15			
					(下層路盤工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1工事に	つき 1 断面	管理資料により確認
				3	排水性舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	-10	各項目共	全項目共3	管理資料により確認
					粒度調整路盤工	幅	-50	-50	-	-	各項目共 1 / 2 0 0 m	主项日共 5	官理資料により開設
				4	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-54	-63	-8	-10	1 工事に~	つき1断面	管理資料により確認
				5	排水性舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	-10	各項目共	全項目共3	管理資料により確認
					セメント(石灰)安定処理工	幅	-50	-50	-	-	1/200m		
				6	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工 (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-54	-63	-8	-10	1工事に~	つき 1 断面	管理資料により確認
				1	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理 工)	厚さ	-15	-20	-5	-7	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
				0	•	幅	-50	-50	-	-	1/200m		
				8	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理 工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-36	-45	-5	-7	1工事に~	つき 1 断面	管理資料により確認
				9	排水性舗装工	厚き	-9	-12	-3	-4	各項目共	全項目共3	管理資料に上り確認
					(基層工)	幅	-25	-25	-	-	1/200m	7.44.77.0	D CENTER CONTRIBUTION
				10	排水性舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-20	-26	-3	-4	1 正事に~	つき1断面	管理資料により確認
				11	排水性舗装工 (表層工)	厚き	-7	-9	-2	-3	各項目共 1 / 2 0 0 m		
					(水僧士)	平坦性	-25	-25	- 3mプロフィ/ (σ)2.4mm 式 (足付き) (σ)1.75m	以下長読	1/200m 各車線の中央で行う	全項目共3	管理資料により確認
ш	ш	Ш											

※中規模工事:1層当たりの施工面積が1,000㎡以上。

小規模工事:施工面積が1,000㎡未満。

ラーズ相は、	£ 12 13	10	工 種 コンクリート触装工 (奈正ヨンクリート版工) アスファル・中間層 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	検査項目 厚 さ 幅 甲 は 性	規 相 個々の測定値 (X) 中規模 小規模 下 12 -9 -12 -25 -15 -35	10個の測定値 の平均(X <sub>10</sub> )	検 査制 合 時	筋 所 級 少 筋 所 数 全 項 目 共 3	備 考 管理資料により確認
ラーズ相は、	12	9	アスファルト中間層コンクリート舗装工	幅を	中規模 小規模 以 上 下 -9 -12 -25 -15	中規模 小規模 以 上 以 下 -3 - -4.5	.,,		管理資料により確認
- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-	10	アスファルト中間層コンクリート舗装工	幅を	-9 -12 -25 -15	-3 - -4.5	随 時	全項目共3	管理資料により確認
THE STATE OF THE S	13	10	アスファルト中間層コンクリート舗装工	厚さ幅	-15		随 時	全項目共3	管理資料により確認
- AR	13			65					
	13	1	(転圧コンクリート版工)	122	-35	_			
	13	1		平坦性			随時		
	13	1		平坦性		転圧コンクリートの		全項目共3	管理資料により確認
_	13	1			-	硬化後、3mプロフィ ルメーターにより (σ)2.4mm以下。	各車線の中央で行う	主項日共 3	官理資料により傭泌
	13	1		目地段差	±	:2	随 時		
			薄層カラー舗装工	基準高▽	±40 ±50	-			
			(下層路盤工)	厚さ	-45	-15	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
				幅	-50	-			
	ı	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工)	厚き	-25 -30	-8	各項目共	A 75 17 11 0	Andrews into sind a 3 . to reducion
			粒度調整路盤工	幅	-50	-	1/200m	全項目共3	管理資料により確認
	-	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工)	厚き	-25 -30	-8	各項目共		Marie Marie Construction
			セメント(石灰)安定処理工	幅	-50	_	1/200m	全項目共3	管理資料により確認
	-	4	薄層カラー舗装工 (hn類アスファルト安定処理	厚さ	-15 -20	-5	久百日十		
			工)	幅	-50	-	1/200m	全項目共3	管理資料により確認
	Ì	5	薄層カラー舗装工	厚さ	-9 -12	-3	夕顶口		
			(基層工)		-25	_	1/200m	全項目共3	管理資料により確認
h	14	1	ブロック舗装工		+40 +50	_			
			(下層路盤工)			-15	各項目共	全項目#3	管理資料により確認
						_	1/200m		
	ŀ	2	プロック舗装工			-8			
			(上層路盤工) 粒度調整路盤工	超	-50	_	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
		3	プロック舗装工	厚 さ	-25 -30	-8	7 W U L		
			(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	del .	-50	_	合項日共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
		4	プロック舗装工	厚 さ	-15 -20	-5	A VE III II.		
			(加熱アスノアルト女正処理 工)		-50	_	合項日共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
	ŀ	5	ブロック舗装工		-9 -12	-3			
			(基層工)		-25	_	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
_				100					
Ţ		枝	- "	AA-M-YE H			検 査	箇 所	備考
81	280	#	-1. 136	快重視日	個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X)	割合	最少箇所数	WH -5
	15		路面切削工	厚さ	t -7	-2	Pole min	A 75 F # 0	管理資料により確認
ń				400	w -25	-	NG 9-9	主州日共る	世年買行により開設
Ę K	16		舗装打換え工	幅	w	-50			
				盤延長	L	-100	1		
				単さ	t iš	当工種			
				幅	w	-25	- 随 時	全項目共3	管理資料により確認
					L	-100			
				工庫さ	t BŠ	当工種	1		
r	17		オーバーレイエ	厚き	t	-9			
				44	w	-25	1		
				延長	L	-100	BN st	金項 日 並 っ	管理資料により確認
				平 坦	性	3mプロフィルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	red Dep	土 州 日 元 3	ロが出来やいしまり機能
一交商友		15	14   1   2   3   4   5   5   15   15   16   16   16   16	セメハイ石以 安定処理工		上層的隆工  年   1-50		L.	上海が成工   1/200m   全項目共3   1/200m   1/200m

# 【改定後】

※中規模工事:1層当たりの施工面積が1,000㎡以上。

	Т	Т						#1 #	格 値				
編章	ĝi j	節	条	枝番	工 種	検査項目	個々の (:	測定値X)	10個の の平均 ※面管理 は測定値	g(X <sub>10</sub> ) Mの場合	検 査	箇所	備考
							中規模以上	小規模以下	中規模		割合	最少简所数	1
3 土木工事共通編	一段施工	6 一般舗装	9	12	排水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-17	以 下 -20	-2 3m7 074	-3	1丁車に	つき 1 断面	管理資料により確認
共通編		I.	10	1	透水性舗装工	平坦性		_	(σ)2.4mml 式 (足付き) (σ)1.75mm	以下長統	1140	26 1 B/I III	日/主具有により第50
			10	1	(路盤工)	基準高▽	±		-	-			
					(Fil m1-)	厚き	15cm t≧ 15cm	-30 -45	-10 -15	-	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
						幅	-1	00	-	-			
				2	透水性舗装工 (路盤工) (面管理の場合)	基準高	t≤15cm t≧15cm	+90 -70 ±90	+t -1 +t -1	50 10 50			
					(100 16 225 2000 16 7	厚さ あるいは 標高較差	t≤15cm t≧15cm	+90 -70 ±90	+5 -1 +5 -1	50 10 50	1 工事に	つき 1 断面	管理資料により確認
				3	透水性舗装工 (表層工)	厚める			-		各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
				4	透水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-2	20	-	3	1工事に	つき1断面	管理資料により確認
		Ì	11	1		厚き	-15	-20	-5	-7	各項目共	A == " -	Andrewson laborated a second second
					I)	幅	-50	-50	-	-	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
				2	グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理 工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-36	-45	-5	-7	1 工事に	つき 1 断面	管理資料により確認
				00	グースアスファルト舗装工 (基層工)	厚める	-9 -25	-12 -25	-3	-4 -	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
				4	グースアスファルト舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-20	-25	-3	-4	1工事に	つき1断面	管理資料により確認
				5	グースアスファルト舗装工	厚き	-7	-9	-2	-3	各項目共		
					(表層工)	幅	-25	-25	ー 3mプロフィ/ (σ)2.4mml 式	- 以-タ- 以下長読	1/200m	全項目共3	管理資料により確認
						平坦性			氏 (足付き) (σ)1.75mm	心下	各車線の中央で行う		
				6	グースアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-17	-20	-2	-3		a de la la compania de  compania del la compania del compania de la compania de la compania de la compania del compania	管理資料により確認
						平坦性		_	3mプロフィ/ (σ)2.4mm 式 (足付き) (σ)1.75mm	以下長読	1 工事に	つき 1 断面	官理資料により機能
		ŀ	12	1	コンクリート舗装工	基準高▽	±40	±50	-	-			
					(下層路盤工)	厚き	-4	15	-1	15			管理資料により確認
						幅	-5	50	-	-	各項目共 1/200m	全項目共3	※偏心量:幅管理にまいて道路中心線から
						中心線偏心量		±	100		, =		左、右を管理する場合 は不要
						延長 L		+	200				
		ļ	12	2	コンクリート舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1工事に	つき 1 断面	管理資料により確認
					コンクリート舗装工	厚さ あるいは 標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15		1	
				3	コンクリート舗装工(粒度調整路盤工)	厚き	-25	-30	-:	_			管理資料により確認
						幅 中心線	-5		-	-	各項目共 1/200m	全項目共3	※偏心量:幅管理において道路中心線から
						偏心量			100		1/20011		左、右を管理する場合 は不要
						延 長 L		±:	200				

# 【改定後】

※中規模工事:1層当たりの施工面積が1,000㎡以上。

Т	Т	1					規	格値				
編:	章 笛	i 条	枝番	工 種	検査項目	(	)測定値 X)	10個の測定値 の平均(X <sub>10</sub> ) ※面管理の場合 は測定値の平均	検	查	簡所	備考
						中規模以上	小規模以下	中規模 小規模 以 上 以 下	割	合	最少箇所数	
土木	2 6 般施工		4	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-55	-66	-8		1 工事に	つき1断面	管理資料により確認
事共通編	工装工		5	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝青)安定 処理工)	厚き	-25	-30 50	-8	各項目共	200m	全項目共3	管理資料により確認
0.00			6	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝青)安定 処理工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-55	-66	-8		1 工事に	つき1断面	管理資料により確認
			7	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚さ幅	-9	-12 25	-3	各項目共	200m	全項目共3	管理資料により確認
			8	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚さ あるいは	-20	-27	-3			つき1断面	管理資料により確認
				(面管理の場合)	標高較差						1	
			9	コンクリート舗装工	厚き	-:	10	-3.5	Tahi	肿		
				(コンクリート舗装版工)	幅	-:	25	-	Hed	-7		
					平坦性			コンクリートの硬化 後 3mプロフィル メーターにより機械 舗設の場合 (σ)2.4mm以下 人力舗設の場合 (σ)3mm以下	各車線の中央	きで行う	全項目共3	管理資料により確認 ※偏心量:幅管理によ いて道路中心線から 左、右を管理する場合 は不要
					日地段美		-	+2	GH	睦		
					中心線			100	Phi.	m)	-	
					偏心量			200	各項目共 1/	200m		
			10	コンクリート舗装工				200				
				(コンクリート舗装版工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-:	22	-3.5 コンクリートの硬化 後				
					平坦性		_	3mプロフィル メーターにより機械 舗設の場合 ( σ )2.4mm以下 人力舗設の場合 ( σ )3mm以下		1工事に	つき1断面	管理資料により確認
					目地段差		±	±2				
			11	コンクリート舗装工	基準高▽	$\pm 40$	±50	-				
				(転圧コンクリート版工) 下層路盤工	厚き	ī	45	-15	随	時	全項目共3	管理資料により確認
					幅	-:	50	-	1			
			12	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工 (面管理の場合)	基準高	±90	±90	+40 +50 -15 -15		1工事に	つき1断面	管理資料により確認
				(MI B AECOMO E)	厚さ あるいは 標高較差	±90	±90	+40 +50 -15 -15				
			13	コンクリート舗装工	厚さ	-25	-30	-8				
				(転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤丁	幅		50	_	随	時	全項目共3	管理資料により確認
			14	和皮調整路盤上 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-55	-66	-8		1 王事に	つき1断面	管理資料により確認
			15	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工)	厚き	-25	-30	-8				1
				セメント(石灰・瀝青)安定 処理工	幅		50	-	随	時	全項目共3	管理資料により確認
			16	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定 処理工 (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-55	-66	-8		1工事に	つき1断面	管理資料により確認
			17	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚さ幅	-9	-12 25	-3	随	時	全項目共3	管理資料により確認
			18	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚さ あるいは 標高較差	-20	-27	-3		a molece	つき 1 断面	管理資料により確認

# 【改定後】

※中規模工事:1層当たりの施工面積が1,000㎡以上。

_	_	_		_							
							規 柞	各値			
編;	nipe j	節	条	枝番	工 種	検査項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X <sub>10</sub> ) ※面管理の場合 は測定値の平均	検 査	箇 所	備考
							中規模 小規模以 上以 下	中規模 小規模以 上以 下	割合	最少箇所数	
	2	6	12	19	コンクリート舗装工	厚き	-15	-4.5			
土木	般 #	般			(転圧コンクリート版工)	幅	-35		随 時		
工力	施工	舗装				999	-30				
木工事共通編		Ï				平坦性	ı	転圧コンクリートの 硬化後、3mプロフィ ルメーターにより (σ)2.4mm以下。	各車線の中央で行う	全項目共3	管理資料により確認
						目地段差	±	2	随 時		
				20	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-32	-4.5			
						平坦性	ı	コンクリートの硬化 後 3mプロフィル メーターにより (σ)2.4mm以下	1王事に	つき 1 断面	管理資料により確認
						目地段差	±	:2			
		İ	13	1	薄層カラー舗装工	基準高▽	±40 ±50	_			
					(下層路盤工)	厚さ	-45	-15	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
						幅	-50	_	1/200m		
			ŀ	2	薄層カラー舗装工						
				-	(上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚き	-25 -30	-8	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
			ļ	0		幅	-50	-			
				3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚き	-25 -30 -50	-8 -	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
				4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト安定処理 工)	厚き幅	-15 -20 -50	-5 -	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
			ŀ	5	薄層カラー舗装工	厚さ	-9 -12	-3	4-20-1		
					(基層工)	幅	-25	_	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
		-	14	1	プロック舗装工						
				•	(下層路盤工)	基準高▽	±40 ±50	-	各項目共		
					(1/順和金工/	厚さ	-45	-15	1/200m	全項目共3	管理資料により確認
						幅	-50	-			
				2	プロック舗装工 (上層路盤工)	厚き	-25 -30	-8	各項目共	全項目共3	管理資料により確認
					粒度調整路盤工	幅	-50	-	各項目共 1 / 2 0 0 m	至 県 日 共 3	官埋資料により確認
			ı	3	ブロック舗装工	厚き	-25 -30	-8			
					(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	椒菜	-50	_	各項目共 1/200m	全項目共3	管理資料により確認
			ŀ	4	プロック舗装工			,			
					(加熱アスファルト安定処理 工)		-15 -20	-5	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
				5	プロック舗装工	幅	-50	-			
				J	グロック舗装工 (基層工)	厚さ	-9 -12	-3	各項目共 1 / 2 0 0 m	全項目共3	管理資料により確認
					(巫僧上)	幅	-25	-	1/200m		
П	Т	П					規 柞	各值	検 査	箇所	l
	章:		条	枝番	工 種	検査項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X)	割 合	最少箇所数	備考
3 ±	-1	6	15	1	路面切削工	厚さ t	-7	-2	随 時	全項目共3	管理資料により確認
木片工	般施工:	般舗				₩ w	-25	-	MG(	工公日元〇	日本工具行により開設
#	I	舗装工	j	2	路面切削工	厚さ t	-7 (17)	-9			
通編					(面管理の場合) 標高較差または厚さtのみ	「標高較差)	(面管理として緩和) -25	(2)	1工事に	つき1断面	管理資料により確認
		ŀ	16	-	舗装打換え工						
					P.	幅 w		50			
					盤工		-1		随 時	全項目共3	
						厚さ t	該当	工種			管理資料により確認
					4	幅 w	-2	25			2 CLM 11 TO 6 7 7880
					装工	延長 L	-1	.00	随 時	全項目共3	
					1	厚さ t	該当	工種			
				_			1		I	I	l .

# 【改定後】

※中規模工事:1層当たりの施工面積が1,000㎡以上。

							規 相	各値				
編	伞	節	条	枝番	工種	検査項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X <sub>10</sub> ) ※面管理の場合 は測定値の平均	検	查	箇所	備考
							中規模 小規模以 上以 下	中規模 小規模以 上以 下	割	合	最少箇所数	
3	-	6	17	1	オーバーレイエ	厚さ t	-	9				
木工	般施	般舗				幅 w	-	25				
木工事共通編	I	装工				延長 L		.00	随	時	全項目共3	管理資料により確認
通編						平坦性	-	3mプロフィルメーター (σ)2.4mm以下 長読式(足付き) (σ)1.75mm以下				
				2	オーバーレイエ (面管理の場合)	厚さ あるいは 標高較差	-20	-3				
						平坦性	_	3mプロフ(ルメーター (σ)2.4mm以下 長騰式(足付き) (σ)1.75mm以下	1 工事につき 1 断面			管理資料により確認

86 I	OC 1		<b>,</b> 枝	co	W + 42 D	AD AN AN		検 査	箇 所	em de
			条番		検査項目	規格値	*1	合	最少箇所数	備考
3 :	- ±	他	4	表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準高 ▽	特記仕様書に 明示	_			
事	r E	盤女臭			法 長 0	-500	随	時	随 時	管理資料により確認
木工事共通編	-	E			天端幅 W	-300	100		NG	E SERVICES / PRINC
					天端延長 L	-500				
		1	5	パイルネットエ	基準高 ▽	±50				
					厚 さ t	-50	EN	助	DN 時	管理資料により確認 (打込記録)
					₩ W	-100	160	any.	NG 197	(施工管理試験)
					延 長 L	-200				
		Г	6	サンドマットエ	厚 さ t	-50				
					₩ W	-100	随	時	随 時	管理資料により確認
					延 長 L	-200				
		Γ	7	バーチカルドレーンエ (サンドドレーンエ)	位置・間隔w	±100				
				(ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	杭 径 D	設計値以上				
		1	8	締固め改良工 (サンドコンパクションパイ	打 込 長 さ h	設計値以上	随	時	随 時	管理資料により確認 (打込記録) (施工管理試験)
				ルエ)	サンドドレーン、袋詰 式サンドドレーン、サ ンドコンパクションパイ ルの砂投入量	-				(旭上曾 /皇郎(秋)
			9 1	固結工 (粉体噴射撹拌工) (高圧噴射撹拌工)	基 準 高 ▽	-50				管理資料により確認
				(スラリー撹拌工) (生石灰パイル工)	位置・間隔w	D/4以内	Esta	時	GA 時	<ul><li>(打込記録)</li><li>(施工管理試験)</li></ul>
					杭 径 D	設計値以上	160	proj.	NG mil.	L=01-02 01は改良体先端深度 02は改良端天端深度
					深 度 L	設計値以上				ELIKACIONIS CHINOS
			2	固結工 (中層混合処理)	基 準 高 ▽	設計値以上				
					施工厚さ t	設計値以上	Esti	助	師 時	管理資料により確認
					幅 w	設計値以上	NO.	neg	H42 m-0.	日、担関不作しより他の
					延 長 L	設計値以上				
	1	F	5 1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高 ▽	±100	随	時	随 時	管理資料により確認
	1 203	Ľ			根 入 長	設計値以上	Rel.	pay	NA not	官理資料により解認
			2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削孔深さり	設計深さ以上	湖	時	跡 時	管理資料により確認
					配置誤差d	100	100		1442	D CLIATITE OF PERIO
			3	土留・仮締切工 (連接プッロク張り工)	法 長 0	-100	跡	時	碗 時	管理資料により確認
				022000000000000000000000000000000000000	延 長 L: L2	-200	160	proj.	NG my	日生具行により帰収
			4	士留·仮締切工 (締切盛土)	基準高 ▽	-50				
					天 端 幅 W	-100	随	時	随 時	管理資料により確認
					法 長 0	-100	İ			
			5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基準高 ▽	-50	随	時	随 時	管理資料により確認
			9	地中連続壁工(壁式)	基 準 高 ▽	±50				
					連壁の長さ ℓ	-50				実測不能の場合は 管理資料により判定す
					変 位	300	随	時	随 時	管理資料により判定す る
					壁 体 長 L	-200	†			
		1	10	地中連続壁工(柱列式)	基 準 高 ▽	±50				
					連壁の長さ 0	-50	İ			実測不能の場合は
					変 位 d	D/4以内	随	時	随 時	管理資料により判定す る
					壁 体 長 L	-200	†			
Щ	_			1	1		l			

幕 章	節	条	枝番	工 種	検査項目	規格値		検 査	箇所		備考
	ż				10 ± 0 1		割	合	最少質	所数	, iii
3 2 ヒー ド般	地盤	4	1	表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準高 ▽	特記仕様書に 明示					
に解した	改良工				法 長 』	-500	随	時	随	時	管理資料により確認
共 重	Τ.				天 端 幅 W	-300	1744		114		D-224 111-003 Palled
					天端延長 L	-500					
			2	表層安定処理工 (ICT施工の場合)	基準高 ▽	特記仕様書に 明示					
				(101)超工の場合)	法 長 0	-500	随	時	随	時	管理資料により確認
					天 端 幅 W	-300	88	not.	85	n-d	各種具有化より締む
					天端延長 L	-500					
		5		パイルネットエ	基準高 ▽	±50					
					厚 さ t	-50	随	時	随	時	管理資料により確認 (打込記録)
					幅 W	-100	阿田	proj-	附	POT	(施工管理試験)
					延 長 L	-200	•				
		6		サンドマットエ	厚 さ t	-50					
					幅 W	-100	随	時	随	時	管理資料により確認
					延 長 L	-200	•				
		7		バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工)	位置・間隔w	±100					
				(ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	杭 径 D	設計值以上	•				管理資料により確認
		8		締固め改良工 (サンドコンパクションバイ	打 込 長 さ h	設計值以上	随	時	随	時	(打込記録) (施工管理試験)
				ルエ)	サンドドレーン、袋詰式 サンドドレーン、サンドコ ンパクションパイルの砂 投入量	-	•				
		9	1	固結工 (粉体噴射撹拌工)	基準高 ▽	-50					date van ider der 1 - 1. 10 vak-min
				(高圧噴射撹拌工) (スラリー撹拌工) (生石灰パイルエ)	位置・間隔w	D/4以内	m.t.	胁	nd.	24	管理資料により確認 (打込記録) (施工管理試験)
					杭 径 D	設計值以上	随	my	随	時	L=以1-以2 以1は改良体先端深度
					深 度 L	設計值以上					12は改良端天端深度
		İ	2	固結工	基 準 高 ▽	0以上					
				(スラリー撹拌工) 「施工履歴データを用いた 出来形管理要領(固結工 (スラリ-撹拌工)編)(案)」に	位置	D/8以内					管理資料により確認 (打込記録) (施工管理試験)
				(スラリ-撹拌工)編)(案)」に よる管理の場合	杭 径 D	設計值以上	随	時	随	時	L=01-02 01は改良体先端深度
					改良長L	設計值以上	•				12は改良端天端深度
		İ	3	固結工 (中層混合処理)	基準高 ▽	設計值以上					
					施工厚さ t	設計值以上	17-6-	胁	Prés	mts.	fate you life skyl ) - Law yek-man
					幅 w	設計值以上	随	my	随	時	管理資料により確認
					延 長 L	設計值以上	•				
	10仮	5	1	土留·仮締切工 (H鋼杭)	基準高 ▽	±100	m.t.	時	m4.	nt.	Antonio I - 1 as referen
	設工			(鋼矢板)	根 入 長	設計值以上	随	my	随	時	管理資料により確認
			2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削孔深さし	設計深さ以上		-1-			
					配置誤差d	100	随	時	随	時	管理資料により確認
		ľ	3	土留·仮締切工	法 長 ℓ	-100					
				(連接ブッロク張り工)	延 長 L <sub>1</sub> L <sub>2</sub>	-200	随	時	随	時	管理資料により確認
			4	土留・仮締切工	基 準 高 ▽	-50					
				(締切盛土)	天 端 幅 W	-100	随	時	随	時	管理資料により確認
				法 長 &	-100						
		İ	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基準高 ▽	-50	随	時	随	時	管理資料により確認

縅	傘	節	条	枝	工 種		io no	項目	規格値		検 査	箇 所		備考
				#		,	突 追	48 11	796 11F 11E	*1	合	最少簡	所 数	3HI -75
土木	一般	15 排壁工	3		補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (シ'オテキスタイルを用いた補強	基	準	高	₹ ±50					
	施工				土壁工法)	高		h<3m	-50					
<b>共通編</b>						à h		h≧3m	-100				-	
						鉛	直	度	±0.03hかつ ±300以内	随	時	随	時	管理資料により確認
						控	え	長	さ設計値以上	Ī				
						延	ł	Ę	L -200	Ī				
			4		井桁ブロックエ	基	準	高。	7 ±50					
						法		@<3m	-50	Ī				
						長		¢≧3m	-100	随	時	随	時	管理資料により確認
						厚	ż	t1 t2	:3 -50					
						延	長	LıL	2 -200					
		16 浚	3	1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)			200ps	-800∼ +200					
		渫工					電気船	500ps	−1000∼ +200	1				
						基準高	лп	1000ps	-1200∼ +200					
						▽	ディ	250ps	-800∼ +200	随	時	随	時	管理資料により確認
							ゼ	420ps 600ps	−1000∼ +200	1 10	uq	HZ	ad	音が重要を行こより機能
							ル船	1350ps	-1200∼ +200	Ī				
								幅	-200					
						3	Œ	長	-200					
			3		浚渫船運転工 (グラブ浚渫船) (バックホウ浚渫船)	基	≄	高	7 +200以下					
							-	幅	-200	随	時	随	時	管理資料により確認
						延			₹ -200					
		18 床版	2		床版工	基	準	高	7 ±20					
		T.				幅			w 0∼+30	Ī		全項目	共 2	
						厚		ĕ	t -10~+20	1				
						鉄	筋の	かぶ	り設計値以上	随	時			管理資料により確認
						鉄角	労の	有効高	±10					
						鉄	筋	[H]	₩ ±20			鉄筋の	いぶり	
								、鉄筋の4 さがマイナ 場合						
-	_		-			•								

編章	6 餌	5 条	枝番	工 種		検査項目		規格		検 査	笛所		備考
			番						割	合	最少自	前 所 数	110 7
3 2 土 州	- 注	-		吹付工(仮設含む) (コンクリート) (モルタル)	法長	ℓ<3m	-5		随	時	随	時	
木工事共	įΙ	-		※(簡易法枠工)	L	0≧3m	-10						-
共通編					厚さ	t< 5cm	-1						
編						t≧ 5cm	-2		1/1,	0 0 0 m²	:	3	
					t	ただし、吹付面に 最小吹付厚は、設計 し、平均厚は設計馬	+厚の50%	場合の 以上と					管理資料により確認
					延	長 L	-20	00	随	時	随	意	
					*	高 さ h	-3	0	随	時	随	意	1
					*	枠 中 心 間 隔	±1	.00	(簡易法	5枠工)	HE2	All-	
		4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長 @ 幅	ℓ<10m	-10	00					管理資料により確認
						ℓ≧10m	-20	00					
						w	-3	0	随	nt.	Pa-fe	24	
					高	å h	-3	0		時	随	時	
					枠	中心間隔a	±1	.00					
		ĺ			延:	長(枠長)L	-20	00					
		4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法	ℓ<10m	-10	00					
					長	ℓ≧10m	-20	00	随	時	随	畴	管理資料により確認
					延 :	長(枠長)L	-20	00					
		6		アンカーエ	削	孔深さℓ	設計値	以上					
					配	置誤差d	10	0	随	時	随	時	管理資料により確認
					せ、	ん孔方向 θ	±2.	5度					
	15	5 1		(一般事項)	基	準 高 ▽	±	50					
	壁工	K K		場所打擲壁工	厚	å t	-2	0	全項目共 1	共 1/200m	全項目共3		管理資料により確認 A対験必要に応じて 行う B対験随時 ※ 舗装に接する場合 は±30とする
					裏	込厚さ	-5	0					
					幅高され	W 1 W 2	-3	0				共 3	
						h<3m	-5	0					
						h≧3m	-10	00					
					延	長 L	-20	00					
		2	l	プレキャスト擁壁工	基	準 高 ▽	±!	50					
					延	長 L	-20	00	随	時	随	肿	管理資料により確認
3 2 土 一	操型	AND MIN		補強土壁工 (補独土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補独土工法)	高	準 高 ▽	±	50					管理資料により確認
木工事共	įΙ	1		(ジオテキスタイルを用いた補強 土壁工法)		h<3m	-5	0					
通編					à h	h≧3m	-10	00	Profe.	nt.	m.c.		
1					鉛	直度△	±0.03	hかつ	随	時	随 時	nop	
					控(補	え 長 さ 強材の設計長)	設計値	0.11					
					延	機材の畝町長) 長 L	-20						
		4	H	井桁プロックエ	基	準高▽	±1						
						# [6] V	-5						
					法長』	e≥3m	-10		随	n+-	随 時	gd-	管理資料により確認
										時		noy	官理資料により確認
					厚	څ t1 t2 t3	-5						
Ш					延	長 L 1 L 2	-20	00					

100	deta	a	枝	T 69	Γ.	40 大	16 H	HI 44 A4			備考		
			*		ľ	快直织口		規 恰 胆	*1	合	最 少 箇	所 数	198 -5
一般	推	3		(制強上(デールアル)原正法) (多数アンカナ海強土工法) (シオテスタイルを用いた・補強 土曜工法)	基	潍	高 ▽	±50	随	時			管理資料により確認
施工	_				高さ		h<3m	-50			随時		
					h		h≧3m	-100				時	
					鉛	直	度 △	±0.03hかつ ±300以内					
					控	え	長き	設計値以上					
					延	ł	₹ L	-200					
		4		井桁ブロックエ	基	潍	高 ▽	±50		時	随		管理資料により確認
					法具		@<3m	-50					
					0		ê≧3m	-100	随			時	
					厚	ż	t1 t2 t3	-50					
					延	長	L 1 L 2	-200					
	浚	3	1	凌漢解道撃に工 (ポンプ 凌漢報)	基準水		200ps	-800∼ +200	随	時	随 時		
	工					気	500ps	−1000∼ +200					
							1000ps	-1200∼ +200					
						ディ	250ps	-800∼ +200				時	管理資料により確認
						せせ	420ps 600ps	-1000∼ +200					
						船	1350ps	-1200∼ +200					
						幅		-200					
					延 長		長	-200					
		3	2	浚渫船運転工 (グラブ浚渫船) (バックホウ浚渫船)	基準		高 ▽	+200以下					
						-	NE .	-200	随	時	随時	時	管理資料により確認
					延		長	-200					
	18床版工	2		床版工	基	潍	高 ▽	±20					
					幅		w	0~+30			全項目	共 2	
					厚		à t	-10~+20					
					鉄:	鉄筋のかぶ		設計値以上	随	時		管理資料により確認	
						男の有効高さ		±10					
					鉄	筋	開隔	±20			鉄筋のかぶり		
						効高	さがマイナ	±10					
	2一般施工	15	2 一般施工 4 3 2 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2	15   15   16   17   17   17   17   17   17   17	## 日   1   1   1   1   1   1   1   1   1	# 日   10   2   15   2   16   16	番 日 ・	# 前 # 番   番   本	# 日   10   10   10   10   10   10   10	###	# 日	# 前 条 章 工 種 検査項目 規格値 割 合	# 前 章 章 工 種 検査項目 規格値 別 合 兼 少 簡 所 数 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2

322	÷	節	条	枝番	工称		檢 査 項 目				規格値		備考							
								195	5K D			割	合	最 少 筐	所 数	INS **5				
3 土	3 2 1			1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)				200ps	-800∼	+200									
土木工事共通	放施工	漢 工					基準高	電気船 ディーゼ	500ps	-1000	~ +200									
共通編									1000ps	$-1200 \sim +200$ $-800 \sim +200$ $-1000 \sim +200$	~ +200	游時								
-	***						▽		250ps		+200		時	脑 時	時	管理資料により確認				
									420ps 600ps		NG HOT	ucy	REI	my	日注臭作により解析					
								ル船	1350ps	-1200	~ +200									
							ήš		Ħ	-200										
							延 長		-2	00										
			3	2	浚渫船運転工 (グラブ浚渫船) (バックホウ浚渫船)	基 準 高 ▽		+200以下				随 時								
							幅		-200		随 時		管理資料により確認							
							延 長			-2	00									
			3		浚渫船運転工 (バックホウ浚渫船)					平均値 間々の 計測値			1 工事に~	つき 1 断面		管理資料により確認				
					(面管理の場合)	標高較差			0以下	+400 以下										
		18床版工	2	2	床版工		基準高		高 ▽	±20										
		I.					幅	i w		0~+30				全項目共2						
							厚 さ t		-10~+20		随時				管理資料により確認					
							鉄筋のかぶり		設計值以上			時								
							鉄筋の有効高さ		±10											
							鉄筋		間 隔	±20				鉄筋のかぶり						
															鉄筋の有効 マイナスの	±	10			